

研修医コンピテンシー調査・研修施設アンケート結果 報告書

2025 年 6 月 13 日

医学部 IR 室

1. はじめに

本学医学部では、2016 年に、学生が卒業時に修得すべき主要な能力を 5 つのコンピテンス（プロフェッショナリズム、コミュニケーション、医学知識と科学的探究心、診療技能、地域社会への貢献）として設定しており、それぞれのコンピテンスに対して、合わせて 47 のコンピテンシーを卒業時の能力達成基準として設定している。

愛知医科大学卒業生（初期研修医 1 年目、2 年目）および愛知医科大学卒業生を受け入れている初期研修先（研修病院）を対象として、本学のコンピテンス・コンピテンシーに関する卒業生の自己評価および本学卒業生を受け入れている研修先評価をアンケート調査した。

2. 調査概要

2-1. 調査項目

1) 初期研修医に対するアンケート

本学の 47 項目のコンピテンシーを「十分に身についた」、「身についた」、「身につかなかった」、「全く身につかなかった」の 4 段階にて、アンケート調査時点（2025 年 3 月）での自己評価を行った。また、本学の教育全体に対する満足度を「十分に満足した」、「満足した」、「満足しなかった」、「全く満足しなかった」の 4 段階にて評価した。

2) 初期研修先に対するアンケート

本学のコンピテンス 5 領域 7 項目[プロフェッショナリズム（医師としての価値観・態度・姿勢、生涯学習・自己啓発・自己管理、チーム医療・医療安全）、コミュニケーション、医学知識と科学的探究心、診療技能、地域社会への貢献]に関して、「十分に身についている」、「身についている」、「身についていない」、「全く身についていない」の 4 段階にて評価した。さらに、大学教育で強化してほしい点や改善してほしい点、本学卒業生の良い点・悪い点、本学に期待することや要望事項等について、コメントを求めた。

2-2. 調査対象

1) 初期研修医に対するアンケート

2024 年度の研修医 1 年目 115 名および 2 年目 120 名を対象とした。

2) 初期研修先に対するアンケート

2024 年度に初期研修医（1 年目、2 年目）を受け入れた 110 施設を対象とした。

2-3. 調査方法

1) 初期研修医に対するアンケート

2025 年 3 月に愛知医科大学医学部事務部学生課から該当者にメールにて依頼した。初期研修医は Web (Microsoft Forms) アンケートにて、アンケート回答時点における 47 のコンピテンシーに関する自己評価を行った。

2) 初期研修先に対するアンケート

2025 年 3 月に初期研修医受け入れ研修先に愛知医科大学医学部事務部学生課から郵送にて依頼し、臨床研修担当部門担当医(代表者)に対して回答を求めた。また、併せて対象となる卒業生のリストも同封した。回答方法は Web (Microsoft Forms) および郵送とし、Fax での回答も受け付けた。

2-4. 回答者数と回収率

1) 初期研修医に対するアンケート

研修医 235 名中、33 名から回答を得た（研修医 1 年目 22 名、研修医 2 年目 11 名）。回収率は 14.0%であった。

2) 初期研修先に対するアンケート

初期研修先 110 施設中 58 施設から回答を得た。回収率は 52.7%であった。

3. 結果

1) 初期研修医に対するアンケート（別紙 1、別紙 2）

愛知医科大学の教育全体を振り返っての満足度（A48）は、研修医 1 年目では「十分に満足した」が 18.2%、「満足した」が 72.7%、「満足しなかった」が 9.1%、「全く満足しなかった」が 0%であり、研修医 2 年目では、「十分に満足した」が 22.7%、「満足した」が 68.2%、「満足しなかった」が 4.5%、「全く満足しなかった」が 4.5%であった。

2024 年度研修医 1 年目または研修医 2 年目において、各コンピテンシスで、「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が 10%以上のコンピテンシーを列挙する。

I: プロフェッショナリズム

<生涯学習・自己啓発・自己管理>

9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。

II: コミュニケーション

21. 様々な ICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し、活用でき

る。

III: 医学の知識と科学的探究心

22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。
24. 疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。
26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。
27. 人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し、健康増進の方法を説明できる。
29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。
30. 新しい医学・医療情報を探索し、医学・医療における疑問点を見出し解決しようと努力できる。
31. 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBM を実践できる。

IV: 診療技能

37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。
40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。

V: 地域社会への貢献

43. 医療計画、地域医療構想について説明できる。
44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。
45. 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。
46. 災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる。
47. 国際社会の健康問題を把握、説明することができ、可能な範囲でその問題に対処できる。

2) 初期研修先に対するアンケート（別紙2）

研修先からの各コンピテンス達成度の評価に関しては、「身についていない」、「全く身についていない」の割合が10%を超えるコンピテンスはなかった。

<卒業生の知識面や技術面などから見て、大学教育で強化・改善してほしい点>

➤ 基本的臨床能力

- ・ 知識や技術を医師となった後も継続して自主的に高める姿勢を身に付けてほしい

- ・ 基本的な診察能力
- ・ 身体診察

- 自主的な学び・思考力の育成
 - ・ 「考える力」を身に付けさせて欲しい
 - ・ 考える力、調べる力、成長し続けるための自己学習力が更に高まると良い
 - ・ プロフェッショナルリズムの涵養

<本学卒業生の良い点>

- 人柄・性格面
 - ・ とても素直で、誰に対しても丁寧に応対している点
 - ・ 元気で明るいところ
 - ・ 研修に対して真面目で真摯な姿勢
 - ・
- 積極性・主体性
 - ・ 自主性を持って診療に取り組んでいる
 - ・ 自己啓発の面が優れている
 - ・ 同期の中心メンバーとして頑張る所。積極的に院内の行事にも参加してくれている
 - ・ 研修に対して積極的である点
 - ・ 興味のある分野、診療科については熱心に取り組み、研究発表にも積極的に向き合っている。
- コミュニケーション力・チームワーク
 - ・ コミュニケーション能力の高い卒業生が多い
 - ・ 穏やかで明るく、コミュニケーションを取ってくれる点
 - ・ 他職種とのコミュニケーションが十分にとれ、チーム医療を実践できる

<本学卒業生の悪い点>

- 学習意欲・向上心の不足
 - ・ 日々、勉強は必要（一部の卒業生）
 - ・ もっと積極性があってもよい
 - ・ 個性をアピールする activity の主張が今ひとつ足りない
 - ・ わからないことを調べる意欲が少し欠如
- スケジュール管理
 - ・ 書類の提出がやや遅いところ

4. まとめ

今回、卒業生アンケートとして、1)初期研修医に対するアンケート、2)初期研修先に対するアンケートを行った。1)に関しては、本学卒業生の研修医に対して、本学のコンピテンシーの修得度に関する自己評価および本学に医学教育に対する満足度を回答してもらった。2)に関しては、研修先からの本学卒業生の卒業時コンピテンスの評価および本学卒業生初期研修医に対するコメントおよび本学に対するコメントを求めた。

1) 初期研修医に対するアンケート（別紙 1, 別紙 2）

過去 3 年間に於ける卒業時コンピテンシー習得度に関するアンケートの結果、下記のコンピテンシーにおいて未達成割合が 10%以上であった。

I. プロフェッショナリズム

9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。

II. コミュニケーション

21. 様々な ICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し、活用できる。

III. 医学知識と科学的探究心

22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。

26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。

27. 人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し、健康増進の方法を説明できる。

29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。

31. 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBM を実践できる。

IV. 診療技能

37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。

40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。

V. 地域社会への貢献

43. 医療計画、地域医療構想について説明できる。

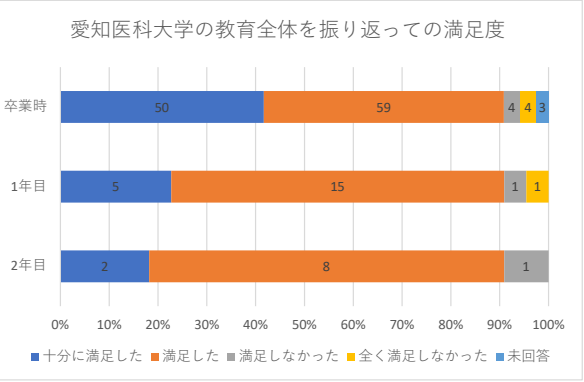
44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。

- 45. 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。
- 46. 災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる。
- 47. 国際社会の健康問題を把握、説明することができ、可能な範囲でその問題に対処できる。

2) 初期研修先に対するアンケート(別紙3)

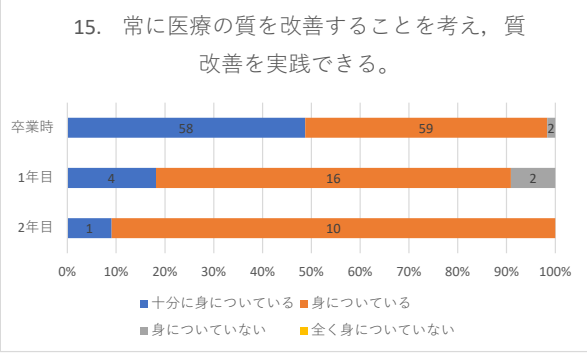
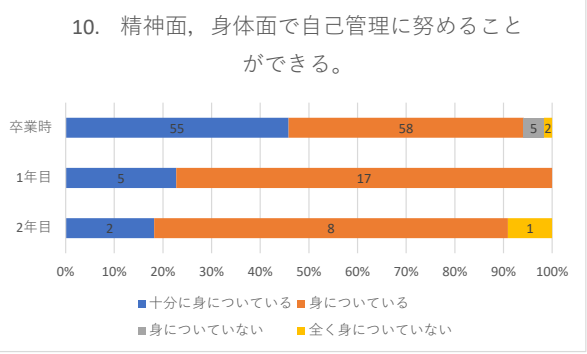
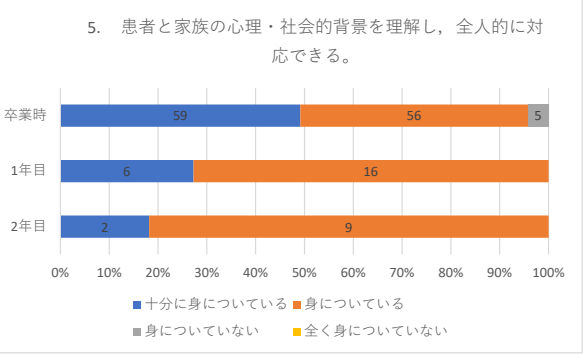
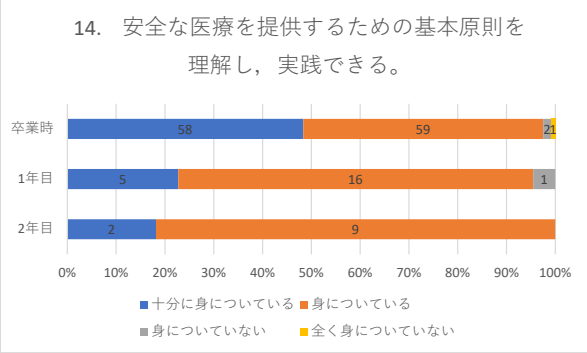
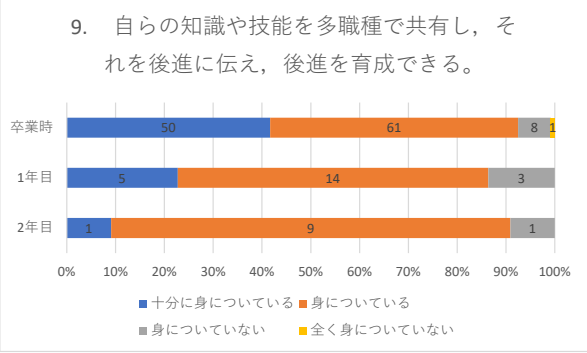
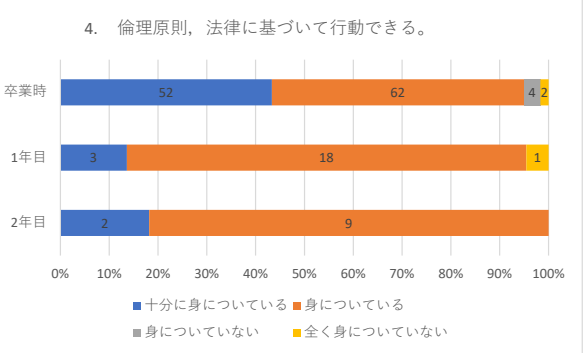
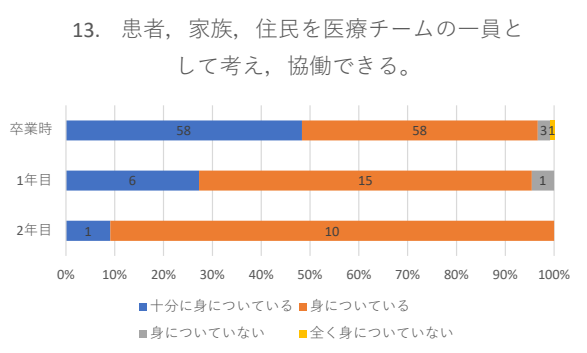
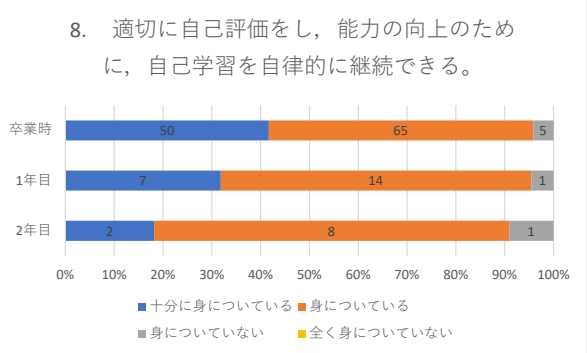
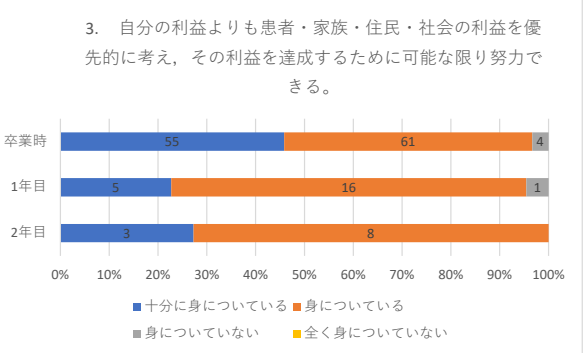
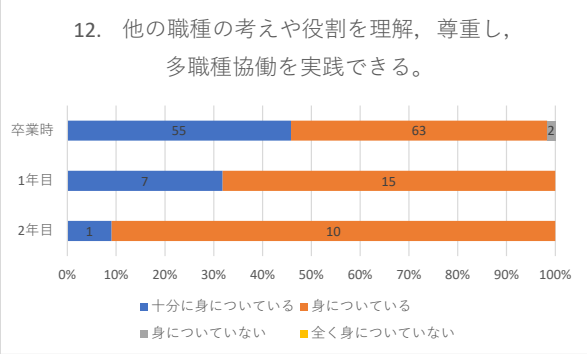
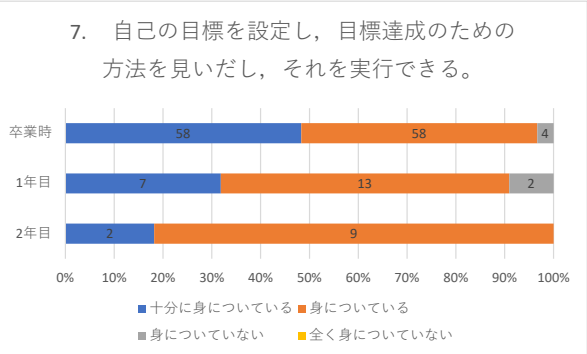
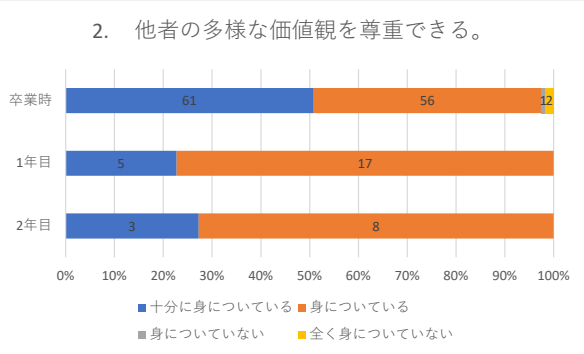
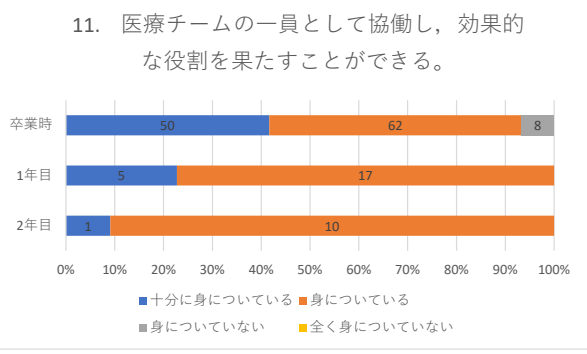
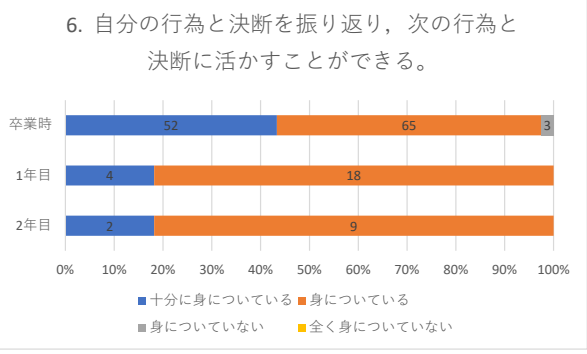
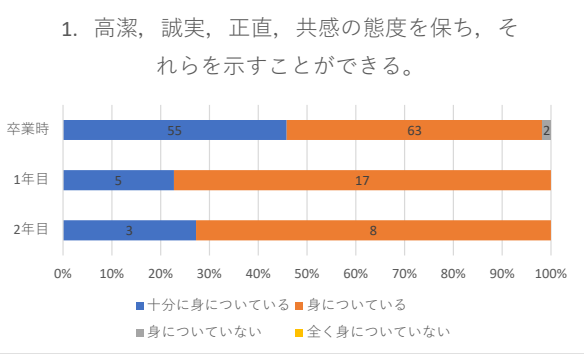
研修先病院から本学卒業生初期研修医に対するコンピテンス評価や本学卒業生の良い点・悪い点、大学への要望等などのアンケート調査を行った。研修先の評価では「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が10%以上のものは該当しなかった。

大学教育で強化・改善してほしい点として、基本的臨床能力、自主的な学び・思考力の育成等があげられた。本学の卒業生の良い点として、人柄・性格面、積極性・主体性、コミュニケーション力・チームワークがあげられた。本学の卒業生の悪い点として、学習意欲・向上心の不足、スケジュール管理があげられた。

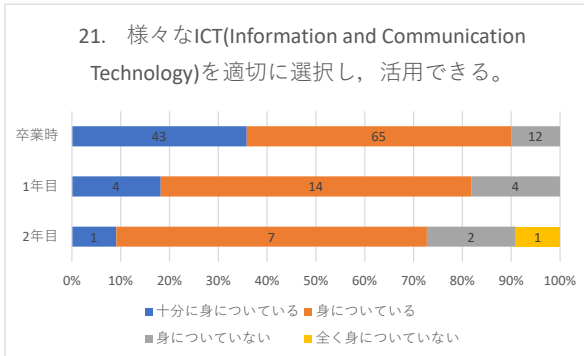
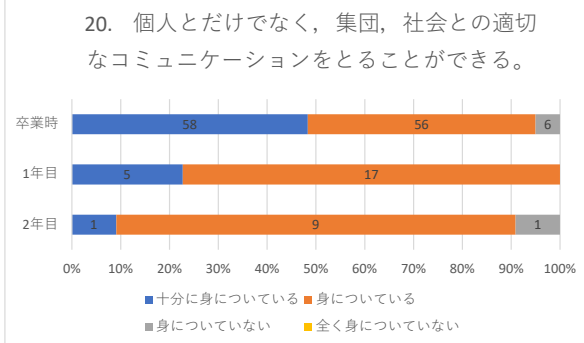
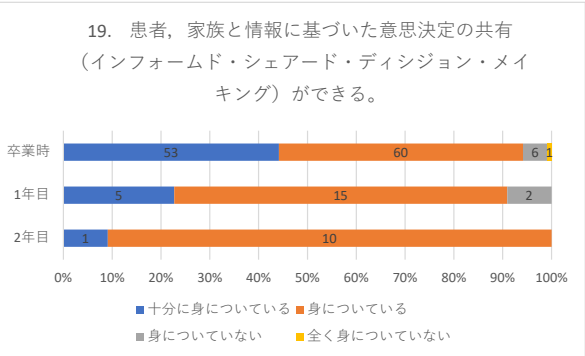
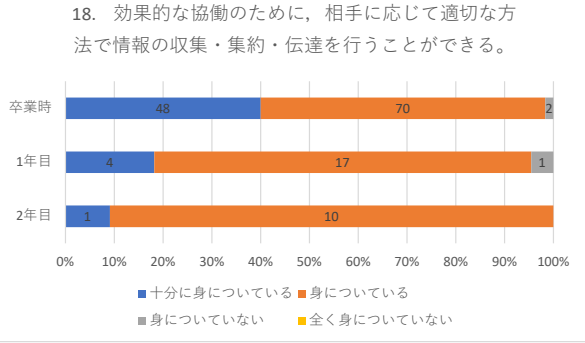
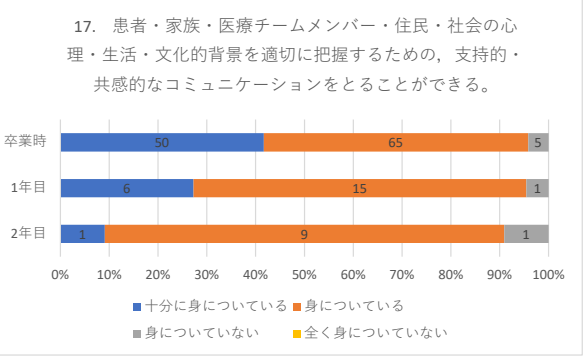
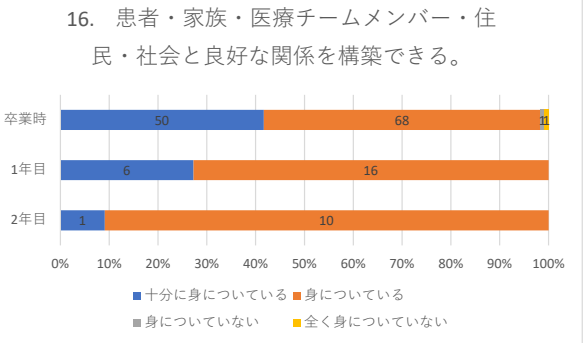


卒業時
(2023年
度) 120
1年目 22
2年目 11

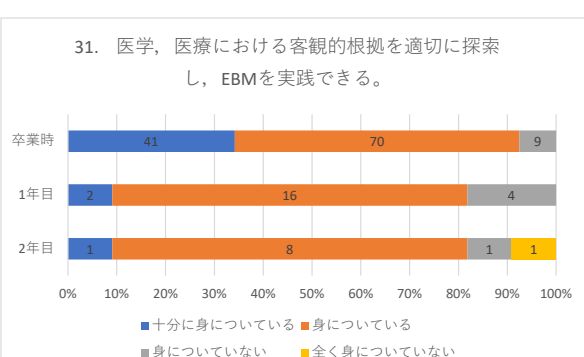
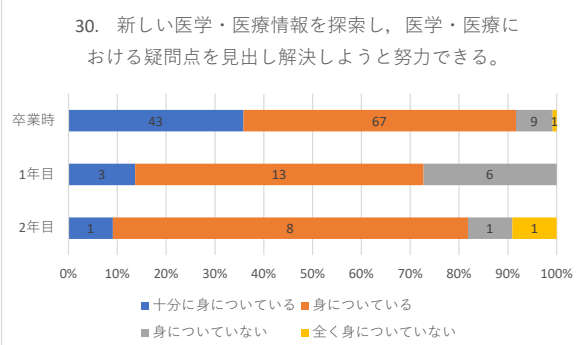
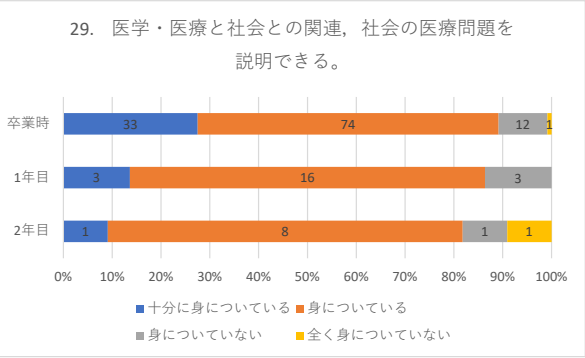
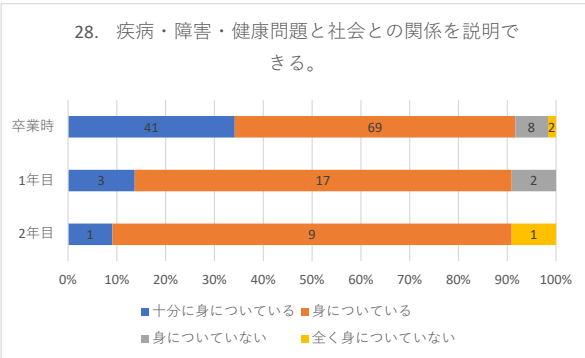
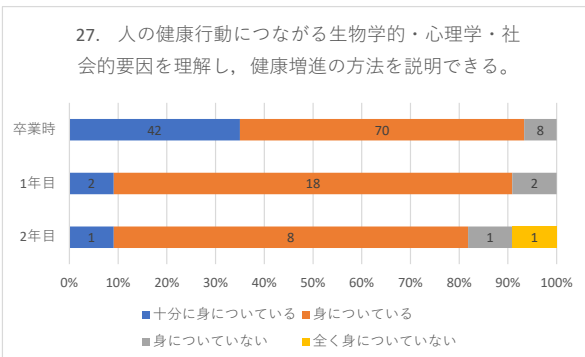
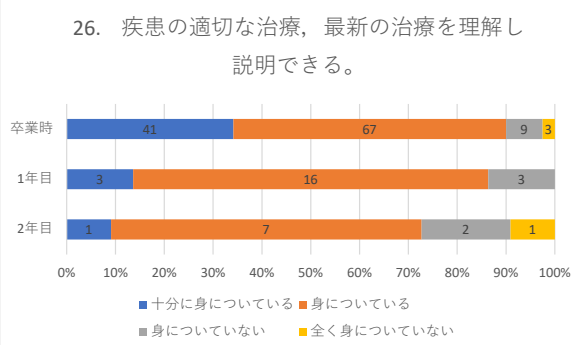
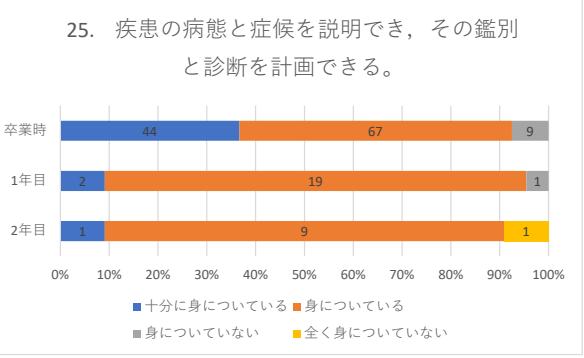
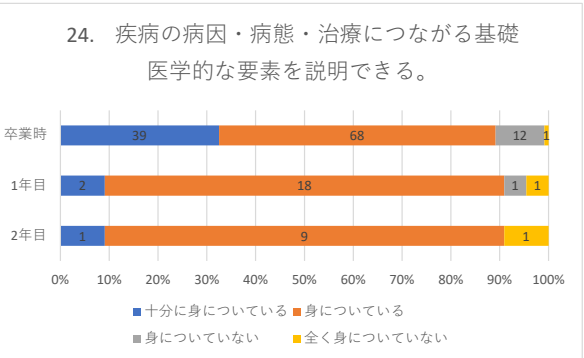
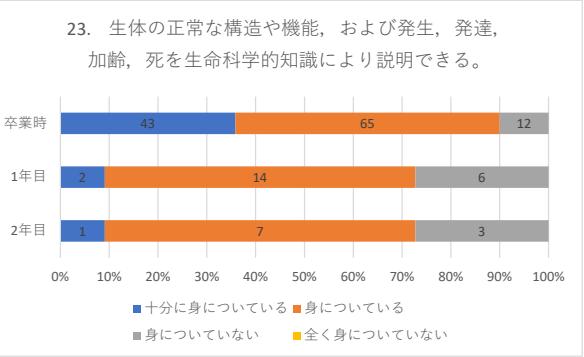
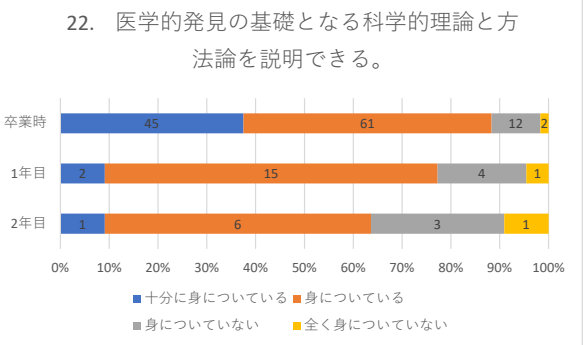
I.プロフェッショナリズム



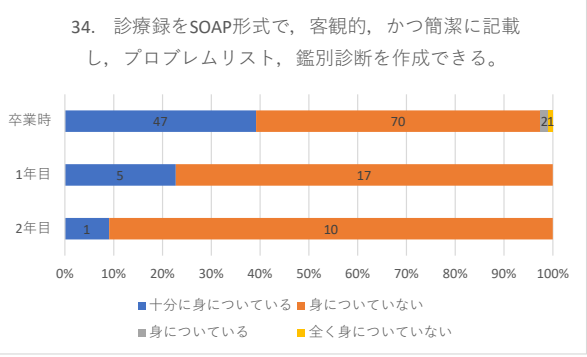
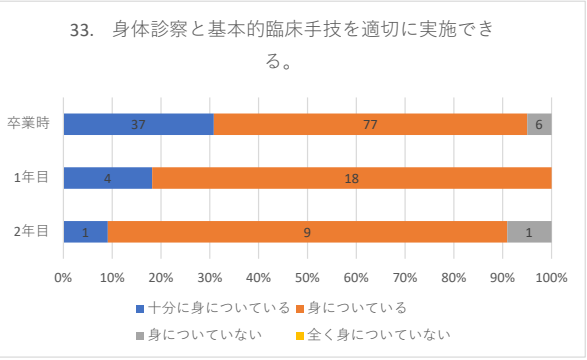
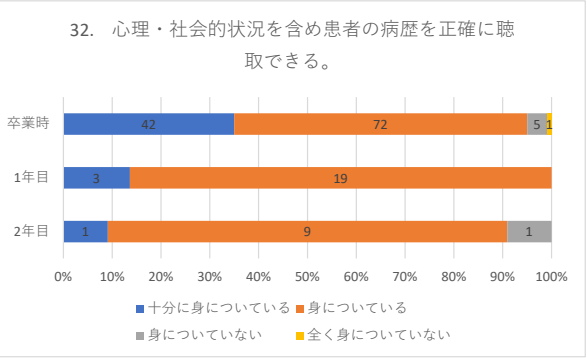
II.コミュニケーション



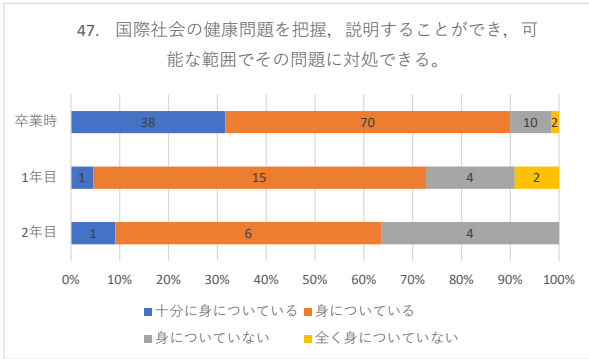
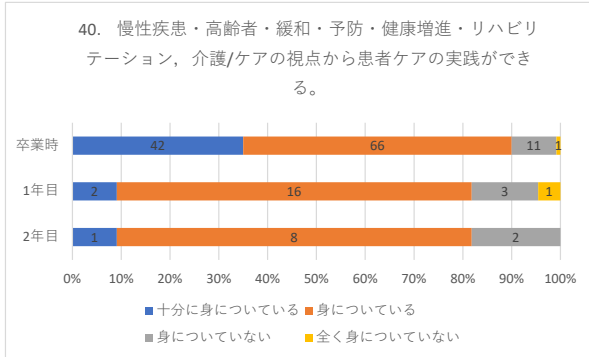
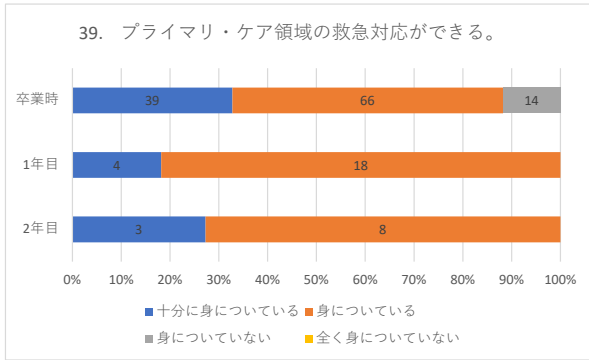
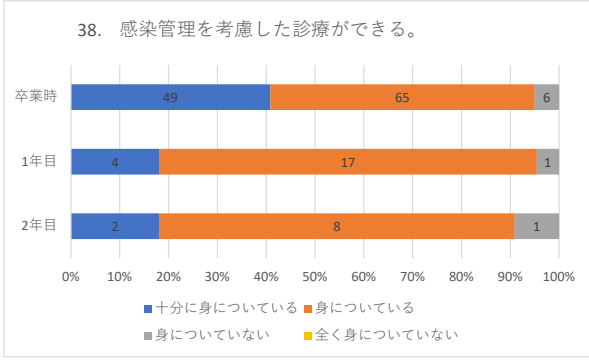
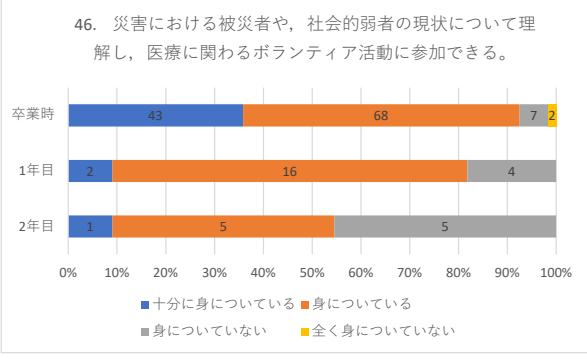
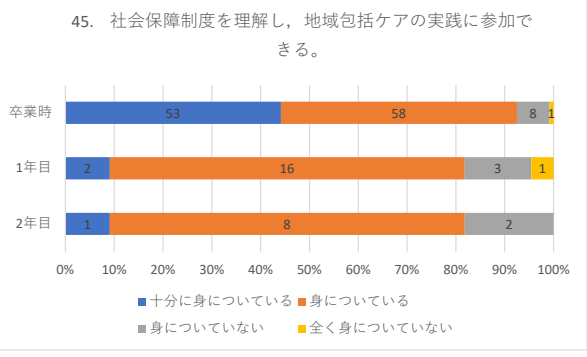
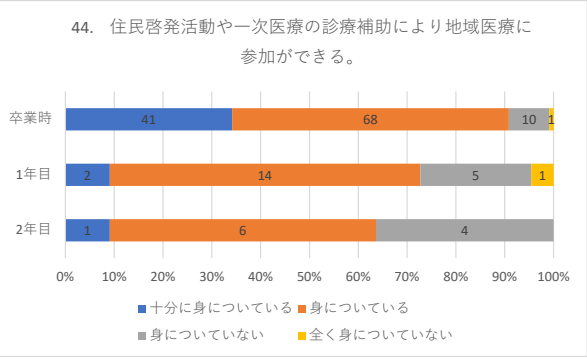
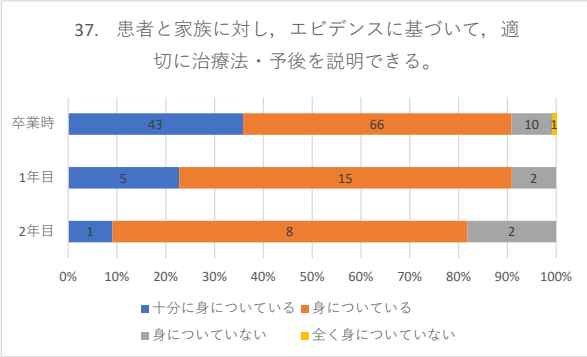
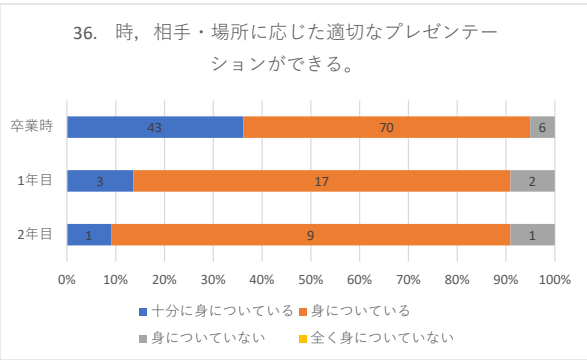
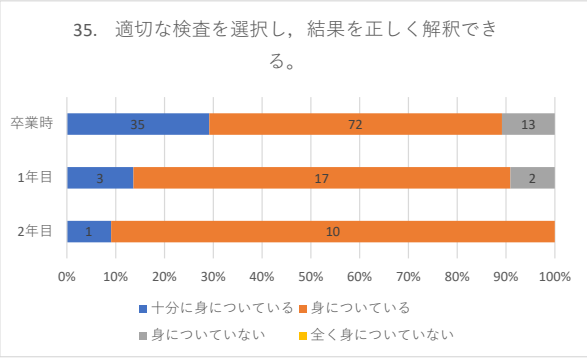
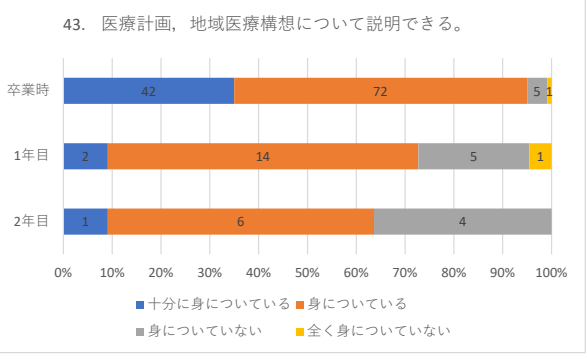
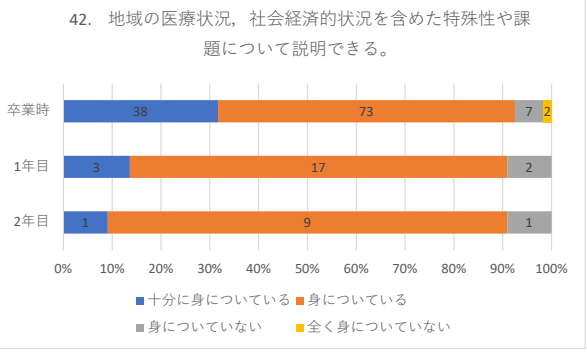
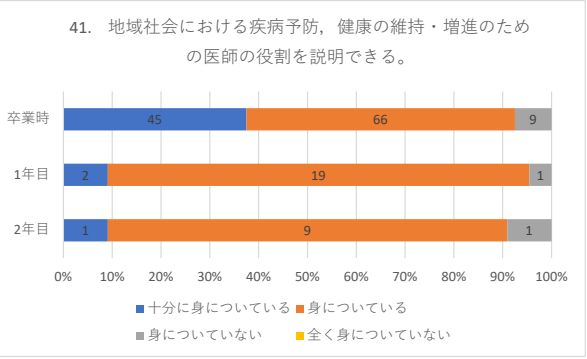
III.医学知識と科学的探究心



IV. 診療技能



V. 地域社会への貢献



2022年度	2023年度	2024年度
I: プロフェッショナリズム		
<医師としての価値観・態度・姿勢>		
3. 自分の利益よりも患者・家族・住民・社会の利益を優先的に考え、その利益を達成するために可能な限り努力できる。		
<生涯学習・自己啓発・自己管理>		
8. 適切に自己評価をし、能力の向上のために、自己学習を自律的に継続できる。	8. 適切に自己評価をし、能力の向上のために、自己学習を自律的に継続できる。	
9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。	9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。	9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。
10. 精神面、身体面で自己管理に努めることができる。	10. 精神面、身体面で自己管理に努めることができる。	
<チーム医療>		
15. 常に医療の質を改善することを考え、質改善を実践できる。	15. 常に医療の質を改善することを考え、質改善を実践できる。	
II: コミュニケーション		
	17. 患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会の心理・生活・文化的背景を適切に把握するための、支持的・共感的なコミュニケーションをとることができる。ができる。	
19. 患者、家族と情報に基づいた意思決定の共有（インフォームド・シェアード・ディシジョン・メイキング）ができる。		
	20. 個人だけでなく、集団、社会との適切なコミュニケーションをとることができる。	
21. 様々なICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し、活用できる。	21. 様々なICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し、活用できる。	21. 様々なICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し、活用できる。
III: 医学の知識と科学的探究心		
22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。	23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。	23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。
24. 疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。		24. 疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。
26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。	26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。	26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。
27. 人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し、健康増進の方法を説明できる。	27. 人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し、健康増進の方法を説明できる。	27. 人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し、健康増進の方法を説明できる。
28. 疾病・障害・健康問題と社会との関係を説明できる。	28. 疾病・障害・健康問題と社会との関係を説明できる。	
29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。	29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。	29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。
	30. 新しい医学・医療情報を探索し、医学・医療における疑問点を見出し解決しようと努力できる。	30. 新しい医学・医療情報を探索し、医学・医療における疑問点を見出し解決しようと努力できる。
31. 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBMを実践できる。	31. 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBMを実践できる。	31. 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBMを実践できる。
IV: 診療技能		
	33. 身体診察と基本的臨床手技を適切に実施できる。	
	34. 診療録をSOAP形式で、客観的、かつ簡潔に記載し、プロブレムリスト、鑑別診断を作成できる。	
35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。	35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。	
36. 時、相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。	36. 時、相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。	
37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。	37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。	37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。
39. プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。	39. プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。	
40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。	40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。	40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。
V: 地域社会への貢献		
41. 地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。	41. 地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。	
42. 地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる。	42. 地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる。	
43. 医療計画、地域医療構想について説明できる。	43. 医療計画、地域医療構想について説明できる。	43. 医療計画、地域医療構想について説明できる。
44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。	44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。	44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。
45. 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。	45. 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。	45. 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。
46. 災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる。	46. 災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる。	46. 災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる。
47. 国際社会の健康問題を把握、説明することができ、可能な範囲でその問題に対処できる。	47. 国際社会の健康問題を把握、説明することができ、可能な範囲でその問題に対処できる。	47. 国際社会の健康問題を把握、説明することができ、可能な範囲でその問題に対処できる。

別紙3

